

第4回 泉佐野市地域公共交通協議会 議事録

日時：令和6年10月31日（木）14時00分～15時00分

場所：泉佐野市役所 本庁5階第1会議室

委員名簿

【敬称略】

《委員》

関係区分	所属・職名	氏名	備考
市職員（特別職）	泉佐野市副市長	真瀬 三智広	会長
学識経験者	独立行政法人国立高等専門学校機構和歌山工業高等専門学校環境都市工学科准教授	伊勢 昇	副会長
交通事業者	南海電気鉄道(株)公共交通グループ経営統括部課長	松崎 彰宏	
	西日本旅客鉄道(株)近畿統括本部阪奈支社地域共生室長	杉田 精教 (保田 地維子)	(代理出席)
	南海ウイングバス(株)取締役営業部長	讃井 聡	
	(一社)大阪タクシー協会常任理事地域交通委員長 (大阪第一交通(株)社長)	芝辻 徹	
	南海ウイングバス(株)労働組合書記長	尾原 健一	
関係行政機関	国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官(輸送部門)	中村 洋一	
	国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官(総務企画部門)	釈迦戸 久夫 (荏屋 翔)	(代理出席)
	大阪府都市整備部交通戦略室交通計画課課長	江藤 良介 (水井 裕瑛)	(代理出席)
	大阪府岸和田土木事務所長	濱田 雄一郎 (岡崎 孝一)	(代理出席)
	泉佐野警察署交通課長	大仲 俊司 (小井出 信)	(代理出席)
公共的団体	泉佐野商工会議所専務理事	上野 公義	監査
	泉佐野市町会連合会連合会長	松浪 雅彦	
	泉佐野市長生会連合会副会長	芝野 久己	
市職員（一般職）	まちの活性課長	今西 紀彰	監査
	まちの活性課地域振興担当参事	宮本 真彰	
	地域共生推進課長	古谷 規晃	
	都市整備部長	高橋 範光	
	道路公園課長	河野 博次	

《オブザーバー》

関係区分	所属・職名	氏名	備考
関係行政機関	国土交通省近畿地方整備局建政部都市整備課長	青山 琢人	欠席
	田尻町事業部都市みどり課長	寺島 潔	

協 議 会 概 要

1 開 会

2 議 事

- (1) 泉佐野市地域公共交通計画策定に向けて
- (2) 新たな交通サービスの導入に向けて

3 その他

4 閉 会



議 事 要 旨

1 開会

○事務局（泉佐野市 道路公園課交通対策担当 休井係長）の司会により開会（14 時 00 分）

○配布資料の確認（配布資料は以下の 5 点）

- ・ 会議次第
- ・ 委員名簿
- ・ 配席表
- ・ 資料 1 地域公共交通計画の策定に向けて
- ・ 資料 2 新たな交通サービスの導入に向けて

○欠席者と代理出席者は以下のとおり

- ・ 欠席者

（オブザーバー）国土交通省近畿地方整備局建政部都市整備課長、青山琢人氏

- ・ 代理出席者

西日本旅客鉄道(株)近畿統括本部阪奈支社地域共生室長、杉田精教委員

代理出席：保田地維子主任

国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官(総務企画部門)、釈迦戸久夫委員

代理出席：苅屋翔運輸企画専門官

大阪府都市整備部交通戦略室交通計画課課長、江藤良介委員 代理出席：水井裕瑛統括主査

大阪府岸和田土木事務所長、濱田雄一郎委員 代理出席：岡崎孝一課長

泉佐野警察署交通課長、大仲俊司委員 代理出席：小井出信課長代理

○本日の協議会は委員 20 名全員が出席し、会議成立要件の過半数を満たしていることが報告された

○以降、泉佐野市地域公共交通協議会規約第 9 条の規定に基づき、真瀬会長が議事を進行した

2 議事

(1) 泉佐野市地域公共交通計画策定に向けて

事務局	※事務局より「資料 1 泉佐野市地域公共交通計画策定に向けて」を説明（略）
真瀬会長	・ 只今の事務局からの地域公共交通計画についての説明で、何かご意見やご質問はあるか。 ・ P9「5 評価指標の考え方」などを説明いただいたが、泉佐野市特有の内容もある。もう少し具体的かつ噛み砕いた説明をお願いします。現状の泉佐野市の状況と、今後の取組に対する考え方について説明が欲しい。
事務局	・ 地域特性を反映した指標として、泉佐野市には関西空港があり、訪日観光客も多いため、公共交通の利用者数の指標算出にあたっては、りんくうタウン駅や関西空港駅の利用者数は除くこととする。
真瀬会長	・ 路線バスの運賃助成があるが、皆さんあまりご存知ないと思うので説明いただきたい。

事務局	・今年度から仕組みが変更になった。以前は公共交通の運行本数が少ない地域にお住まいの方に対して、南海ウイングバスの運賃を助成する割引チケットを送付し、負担額分を泉佐野市の地域ポイント「さのぽ」を別途付与する事業を行っていた。 ・今年度からは、無料券を大木や日根野より東の地区にお住まいの高齢者に配布する制度に変更した。
伊勢副会長	・P9「5 評価指標の考え方」、①公共交通人口カバー率の説明で、目標設定の考え方の2つめ「新たな交通サービスの導入があった場合は、カバー圏域の定義を見直す」というのは、例えば、デマンド交通を将来的にどこかで本格導入した際には、それも公共交通サービスとみなし、カバー圏域を設けて指標に加える可能性もあるという解釈でよいか。
事務局	・デマンド交通の導入や、コミュニティバスのバス停の再編等があれば、見直す予定である。
伊勢副会長	・コミュニティバスの再編をした場合、カバー圏域の定義（バス停半径 300m 圏）の定義についてはそのままよいのではないかな。
事務局	・定義は変えず、カバー率の算出をする。
伊勢副会長	・関 P11「⑧公共交通の年間利用者数」は、鉄道と路線バスとコミュニティバスが算出対象となっている。公共交通のカバー率の算出にデマンド交通を対象とするのであれば、本格運行された場合、利用者数も実績に加えてもよいのではないかな。 ・今は導入されていないため基準値として記載はできないが、本格運行された時には加味してもよいと思うが、その点はいかがかな。
事務局	・本格実装された際には、検討の上、算出に加えてもよいと考えている。
伊勢副会長	・算出方法を地域公共交通計画に詳細に記載する予定なら、デマンド交通実装を視野に入れて念頭に置いた記載があればよい。
荻屋委員	・P8「2 公共交通サービスの充実による市民の満足度向上」、2つめの「HP における公共交通に関する情報更新等の実施回数」で基準値がないのは、今は実施されていないということか。
事務局	・協議会の開催内容等を HP にアップしているが、更新回数が不足している状況であり、ブランクとさせていただいている。
荻屋委員	・（更新回数を数えることは）今からでも出来ると思う。
水井委員	・指標値は今後 10 年間の目標となっているが、策定後は毎年度の目標を作り、10 年後の目標値との乖離で進捗を確認するイメージでよいか。
事務局	・評価の時期に書いているとおり、国勢調査等のデータを使用する指標については最終年度で評価をさせていただく。それ以外の毎年確認が出来るデータについては、毎年度の確認をしながら、目標設定も見直しをしていく必要があると考えている。
荻屋委員	・策定後も会議を毎年度、定期的で開催して振り返り、進捗を図っていくということではよいか。
事務局	・そのように考えている。

真瀬会長	・ P3「1 前回協議会議事の振り返り」で、シェアサイクルの記載があるが、泉佐野市内のシェアサイクルは運営会社のトラブルにより利用停止になっていると聞いたが、計画にはこのまま記載するのか。詳細説明をお願いしたい。
宮本委員	・ まちの活性課から説明する。シェアサイクル事業は、市内の観光周遊を目的として実施しているも、実施事業者が債務超過に陥っていると、先月、代理人弁護士を通じて通知があり、利用停止した。 ・ シェアサイクル事業は、GPS 機能などを搭載した自転車を利用して、市内に 7 ヶ所の自転車ポートを設置し、スマートフォンで事前決済してポート間を利用する仕組みとなっていた。 ・ 他にレンタサイクル事業を泉佐野駅前とりんくうタウンで実施している。
真瀬会長	・ ラストワンマイルへの対応で、シェアサイクルについて聞くことがあるが、事務局としてはどう考えているのか。
事務局	・ 本市のシェアサイクル事業は利用停止になっているとのことなので、見直しが必要になってくると考えている。
伊勢副会長	・ P5「2 施策の実施スケジュール」方向性 1 のうち、「適切な運賃設定」において“新たな交通サービス導入時には採算性を考慮しつつ”という文言がある。おそらく自治体も財政的な問題で公共交通に無制限に資金を投入できる余裕があるわけではないと思う。 ・ コミュニティバスは運賃を取っていないので収支率の算出は難しいと思うが、例えば、公共交通に投入している市の資金のような指標は設定できないか。
事務局	・ コミュニティバスについては、乗客数が上下しても歳出は変わらないため、乗客数が増加すれば指標が向上すると考えるが、デマンド交通は乗客数が増えると歳出額も増えて指標が下がる部分もあると考えている。 ・ 歳出に関する指標については、算定は難しいと考えている。
伊勢副会長	・ 例えば、公共交通の空白地域を減らしたり、市民の満足がいくサービスをするために便数を増やすと、歳出は増えていく。今のところ満足度等のみが指標になっている。満足度を上げていくとそれだけお金が掛かるわけで、ある程度（予算額は）ここまでというラインが自治体にあるのかと思った。そのために歳出に関する指標は必要ではないかということ。
事務局	・ おっしゃるとおり、市もいくらでも予算を使えるわけではない。指標をどうするかの話もあったが、市民の利便性が高まること、交通弱者の交通機会確保等について費用が掛かるのは一定仕方がないと考えている。 ・ 市としては予算が確保できる範囲で、より効率の良い手法を検討していきたいと考えている。ただ、いくらでもお金があるのではなく、これだけ利便が高まるのであればこの程度の金額の執行は仕方がないというような判断はしていきたい。 ・ 今現在、（予算額を）指標に入れることは考えていない。
真瀬会長	・ P10「5 評価指標の考え方」、評価基準「④泉佐野市が主体的に運行するコミュニティバスの満足度」で、令和 5 年度に実施した市民アンケート調査において、泉佐野

	のコミュニティバスの総合評価について「どちらともいえない (28.2%)」と回答している市民のうち半数が「満足している」「どちらかといえば満足している」へ転換した際の値を目標値としている。前回のアンケート結果について、もう一度ご説明をお願いしたい。 例えば、何%の方が満足しているかなど。今回取りあげていただいているのは「どちらともいえない」という部分のみである。
事務局	今、資料の持ち合わせがなく申し訳ないが、「どちらともいえない」、白でも黒でもない方が、できるだけ満足しているという方向に持っていけたらということで、このような指標にさせていただいた。
真瀬会長	例えば、「満足している」という数字があり、それを上回る数字を求めていく指標の方がよいのではないか。
事務局	「どちらともいえない」という方が、「満足している」「どちらかという満足している」に変わると、結果的に同じような数字になってくると考えている。
事務局 (コンサル)	補足させていただく。おそらく「どちらともいえない」と回答されている方は、普段それほどコミュニティバスをご利用されていない方と伺える。そういう方々が実際にコミュニティバスを利用して満足を得られることが、(公共交通利用の) 底上げになることを想定して「どちらともいえない」という方の満足度が、重要という位置づけである。
真瀬会長	説明はよく分かるが、「どちらともいえない」人が 28.2%あって、次もアンケートを取ったら、また「どちらともいえない」方が出て来ると察するので、どちらかと言えば、満足度を高める方が分かりやすい気がする。
事務局	ご意見をいただいたので、そういうことを勘案しながら、見直しも含め検討していきたいと考えている。
(2) 新たな交通サービスの導入に向けて	
事務局	※事務局より「資料2 新たな交通サービスの導入に向けて」を説明 (略)
伊勢副会長	- P7「5 今後のスケジュール」で、デマンド型交通実証実験のチャートを見ると、実証実験の後に効果検証を実施することになっている。評価指標の検討と目標値の設定が要と思うが、そのスケジュールを検討いただきたい。その際の調査項目の検討も実施していただきたい。 - 今のところ、それらはどれぐらいの時期で検討されるのか。
事務局	- 実証実験の際に、利用者にアンケートを取るなどして満足度や効果を検証したい。 - 指標などについては、出来るだけ早く事務局で考え、お伝えする。
伊勢副会長	1月の協議会で示されるイメージか。
事務局	そのように考えている
伊勢副会長	1月までに時間が空くので1点お願いする。実証実験の目的は高齢者の外出促進ということで、その検証は可能と思うが、ぜひ既存の公共交通サービスの利用状況の変化についても捉えていただきたい。

	・今後、どのように役割分担するかという意味でも、要はデマンド交通の導入によって他の公共交通も使われるようになったのか、あるいは利用が減ったのかを見ていきたいので、ぜひお願いしたい。
真瀬会長	・P6「4 想定するミーティングポイント」で、停留所が赤、黄、緑とあるが、これを説明していただきたい。
事務局	・図下の凡例に書いてある。例えば、青はスーパー・コンビニ、オレンジ色は病院・介護施設という形で色分けして表示した。 ・ただ、これからミーティングポイントを設置出来るかどうかの確認も必要であり、また、新たに増やす可能性もあるので、今現在の状況としてお示しした。 ・実証実験に向けて、これから若干のポイントの増減があると考えているので、ご了承いただきたい。
真瀬会長	・今後、このミーティングポイントの設置について検討していくことでよろしいか。
事務局	・実際に設置出来るかどうかもあると思うので、それも含めて調整して参りたい。
事務局 (コンサル)	・1 点補足する。ミーティングポイントは、バス停のようなものを置くイメージではなく、マップ上でその位置をご案内させていただき、利用いただくイメージである。 ・ただし、例えば、スーパーやコンビニなどの駐車場があったり乗降が出来るポイントについては、ポスターなどを掲示させていただきミーティングポイントを周知していきたい。
真瀬会長	・ミーティングポイントには分かりやすい表示をされるということによいか。
事務局 (コンサル)	・今、100 ヶ所ほどのポイントを想定している。その全部を（掲示物などによる）分かりやすい標示をするのではなく、公共性の高い施設やコンビニなどの店舗等には設置のご協力をいただく。
真瀬会長	・利用される市民の方が、どこで乗ればよいか、どこを目的として降りたいかを、電話で確認したうえで利用ということか。
事務局 (コンサル)	・例えば、マップをスマホ上で検索していただき、ご自宅の近くのポイントへの車両の予約と目的地をコールセンターにお問い合わせいただく。
真瀬会長	・周知の方法については、やはりスマホが必要になるのか。
事務局 (コンサル)	・スマホを持たれている方には、スマホの案内をさせていただき、持たれていない方はマップをお渡しして案内する。
真瀬会長	・（スマホは）高齢者には厳しいような気がする。他の地域の方も上手く運用されているのか。
事務局 (コンサル)	・この2、3ヶ月の間に、出来るだけ周知チラシを配布させていただく。あるいは地元説明会の開催なりで案内していく。
真瀬会長	・そうすると、2月、3月に運用開始したいということだが、住民説明会は、次回の1月の協議会を経てから行われるのか。
事務局 (コンサル)	・今から始めさせていただく。
水井委員	・現状、このエリアにお住まいの方は、だいたい何名ぐらいおられるのか。

	・無償で1台対応、9時から17時となるが、時間帯や台数は、始まってしまえば基本的にそのまま貫くしかないイメージなのか。
事務局	・台数に関しては、まずは車両1台で対応させていただく。予算的なところも含めて、利用状況を見ながら、例えば、2月は1台で対応したが、たくさん乗っていただいたので3月は2台にすることもある。 ・利用対象者についても、当初は実証実験エリアにお住まいの方とかなり限定させていただくが、利用人数が少なければ、エリア外の方も対象エリア内が目的地、出発地であれば使えるようになど、柔軟に対応していけたらと考えている。
事務局 (コンサル)	・人口10,181人、うち高齢者人口2,680人、高齢者率26.34%となっている。
水井委員	・今回は実証運行なので、今後どうするか判断指標を作ることが主眼だと思う。拾いきれない部分は、ある種そういうものだと整理するものかと考えている。
伊勢副会長	・今の事務局からの回答で、利用が増える場合は車両を1台増やすという話だったが、あまりやりすぎるとタクシー事業者さんの利用客を取ってしまう気がする。この協議会で承認しているのは、今回の協議会資料に書いている内容だと思うが、協議会は1月の次は4月予定で実証期間中に開催予定がない。増便、車両を増やす場合は、この協議会で事業者さん等がいるなかで議論が必要かと思う。それだけは留意いただきたい。
事務局	・了解した。
真瀬会長	・(車両は)市民が4人乗車出来る普通のタクシーのようなものでされるのか。新聞等々を見ると、ミニバンで7、8人乗れるような写真がよく出ている。
事務局	・当初、一般的にいうハイエースのような車両を考えていたが、近隣でも既に実証実験されている自治体が複数あり、結果を見ると、乗り合い利用がかなり少なかったとお聞きしている。それであれば、通常のタクシー車両で、ハイエースに比べると小回りが利くので狭い道路にも入っていけるという部分も、メリットと考えており、今回の実証実験については、タクシー車両を使って行いたい。
真瀬会長	・車両が小さい分、狭いところまで入っていけるメリットがあるのか。
事務局	・メリットはあると考えている。 ・他の近隣の状況を見ても、乗り合いは「1.何人」という実験結果が出ているところもあるので、人数的にはタクシー車両で充足出来ると今のところ考えている。
真瀬会長	・前回の会議で、大阪タクシー協会の芝辻委員からなかなか厳しいご意見を頂戴したが、今回、この議論を聞いていただいて、今回の提案にご意見を賜りたい。
芝辻委員	・この実証によって、市民の方に少しでも外出の機会と公共交通の利用を作っていたければありがたい。 ・車両については車椅子が入るUDタクシーであれば、かなり小回りが利いてスライドドアで乗りやすい。普通のセダンではなく、シエンタで車椅子がそのままスロープで入るような車両。
真瀬会長	・AIデマンドについてはどのようにお考えか。

芝辻委員	・大阪市内ならば、かなり AI は活躍する。事務局から近隣のお話があったが、ほぼタクシーのような使われ方をしている。今回の実証でどうなるか分からないが、本来は AI が活躍して乗り合い最大 4 名で（それ以上は）お断りするくらいが理想。 ・現状、大阪第一交通で実証させてもらったのもほぼタクシーに近い利用形態だった。乗り合いがお友達以外でなかなか成立しない。
真瀬会長	・ 1～2 人程度の利用ということか。
芝辻委員	・大阪市内とは人口がまず違うので、当然そうなるのかと思う。とにかく、公共交通を利用していただくのが一番。いろいろな形で、電車、バス、タクシーに乗っていただいて、いいなと思ったら、リピーターで乗っていただく。
真瀬会長	・他に何かご意見、ご質問はないか。 ・それでは、ご意見等々も無いので、以上で本日予定の議事は終了する。

3 その他

事務局	・次回の協議会の開催は、令和 7 年 1 月頃を予定。詳細は、開催が決まれば改めて皆様にご案内する。
真瀬会長	・次回の開催は令和 7 年 1 月頃で、また皆様方のご出席を賜りたい。 ・色々なご意見を頂戴したので、これを参考に、また次回の協議会を進める。

4 閉会

○事務局の司会により閉会